

神のタンスの引き出しをのぞき見る（2026年8月5日）

キリスト者はどんな服を着るのでしょうか。どこで服を見つければ良いのでしょうか。服はいくらするのでしょうか。これらの問いに対する「服は私たちが持っています。それを着ましょう」という主使徒の答えは驚きです。

2026年6月6日の土曜日、アンゴラのルアンダで行われた青年礼拝で、ヘルゲ・ムチュラー主使徒が基調聖句として引用したのは、コロサイの信徒への手紙3章12節でした。「ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。」〔以下、主使徒による説教の要約〕

古い服、新しい服

この聖句には興味深い背景があります。使徒パウロがコロサイの信徒に手紙を書いたのは、彼らが然るべき生活を送っていなかったためです。偽り、^{いつわ}欺き、言い争いが日常茶飯となっていました。このような状況で、パウロはどうやって彼らを励ましたのでしょうか。

コロサイは当時、服飾の町として知られていました。生地を染め、服を作り、販売していました。そこでパウロは手紙の中で衣服をたとえに用いたのです。彼らは古い生き方といういわば古い上着を脱ぎ捨て、新しい生き方、すなわちキリスト者としての振る舞いを身につけるべきでした。しかし、古い上着を脱ぎ捨てるというのは、必ずしも簡単ではありません。他に着るものがない人もいれば、お気に入りの服に愛着を感じている人もいます。

新しい服といっても面倒な話で、どれにしようか迷ってしまいます。信念、理想、助言者が多種多様だからです。しかし、キリスト者の皆さんは簡単です。キリストが着ておられるものを着るのです。新しい服が高くて手が届かない人もありますが、神様の上着、主イエス・キリストの上着は、



ただです。しかも、その新しい服は、皆さんが洗礼や堅信礼を受けた時から、皆さんのタンスの中に入っています。聖霊の賜物を通して、神様がこれら上着でタンスを満たしてくださったのです。あとは聖霊が働くのに必要な場所を用意するだけです。タンスを開けて、服を取り出して、身につけましょう。

キリストという上着

では、私たちのタンスを見てみましょう。何が入っていますか。

深い憐れみ。 かつてよく、人を気にかけず通り過ぎるのが流行とされることがあります。イエス様は、息子が墓へと運ばれていくナインのやもめをご覧になり、心を痛め、深く同情されました。ただその上着を身につけ、皆さんの周り、つまり隣人や友人を見渡し、困っている人がどこにいるかを見定め、憐れみを示しましょう。

慈愛。 愛を行動に表しましょう。これは、耳を傾けること、陰口ではなく優しく語りかけること、排除ではなく受け入れること、支えること、分かち合うこと、祈ること、徳を高めること、そして

感謝を伝えることを意味します。この上着を身につけて、外に出て、人に善を行うのです。

謙遜^{けんそん}。主イエスはご自身を低くされました。天におられたにもかかわらず、痛み、死、裏切り、憎しみのほびこるこの地上に、自ら進んでおいでになり、十字架に至るまでの道を最後まで歩まれました。どうかこの上着を身につけて、すべての人の前に身を低くしていただきたいと思います。信徒であれば、他人を自分以上に尊い者とし、すべての人に敬意と誉れをもって接することが必要です。

柔和。イエス様は唾^{つば}を吐きかけられ、殴られ、鞭^{むち}打たれました。それにもかかわらず、そういう彼らを赦してくださるよう父なる神様に祈られました。この上着を身につけましょう。そうすれば、攻撃されても、仕返ししようとは思わなくなります。

寛容。ペトロはイエス様に向かって水の上を歩いている最中に、信仰を失いました。その後、イエス様を知らないと言いました。どちらの時も、イエス様は彼の弱さや過ちに対して、慈愛で対応されました。彼を救うために手を差し伸べ、その後にただ一言「私を愛しているか」と尋ねられました。「私たちは皆、互いの過ちを温かく受け入れ、赦し合いましょう。

上着はもうあります。私たちはただそれを着れば良いのです。その上着が大き過ぎたとしても、気にすることはありません。とにかく身につけましょう。なぜなら皆さんが似合うよう成長していくからです。そして主イエスは来られたら、私たちをご覧になり、「私の愛する花嫁よ、あなたはなんと美しいことか」と言ってくくださることでしょう。この時、皆さんが着ている上着は、まるで^{あつら}お誂えの着物やドレスのように完璧に仕上がっているのです。

ナックトゥデイ

新使徒教会国際本部発行

原著 Sophie Berg

写真 アンゴラ新使徒教会

日本語訳発行 〒 206-0014 東京都多摩市乞田 1320 日本新使徒教会
(042)374-0070